

戰時佛蘭西の依頼し流用するを得るものなり更にアルプスには精銳の軍隊あり其兵二十萬を下らず亦既に徒に伊國境上に盤踞し其を要せざるものなりとす是を以てか即ち諸國を待たずアルプスに其の軍を動かすは決然と試みるべき地點——その何れたるを問はず——に佛國軍隊の兵五十萬を加へ得たるものにして過去十年間に行はれたる軍事改革中佛國の軍事に實に得たるもの之に過ぎたるはあらざるなりと

斯くの如き事情なるを以て露國の絶東に試みる冒險は柏林の參謀部に取りて之に大喜悅を與ふるに堪へたる大青報たらざるを得ざるべし是れ即ち多年の間露國をして其軍事の注意を盡く之に傾倒せしむるに至るべきものにして爲めに非威を失墜せしめ其資源を薄弱ならしむべく獨逸に再び其多年の所願たる西歐の覇權を獨逸に得せしめんとするものなり獨逸に取ては頗る外形のなる其中立を宣言し苟も之に依りて難を得る限りは百方その手段を盡くして露國を助け露國に其強大なる計畫を鼓吹するを以て即ち其利益なりとす若し太平洋の提督伯林の之に許したる其海面より獨逸は其軍艦遂に層々に化せらるるに至るものと

あらば是れ大西洋の提督に取りて即ち利益ならずとせす少くも北歐に於て獨逸の海軍は其優を得するに至るべきなり
海外の所謂輿論なるものを發表する巨多の機關を獨逸は柏林より操縦して常に英國の方針を曲解するものとみ事とし露國の讀者に英國の所見を詐り之に不快の感を挑發せしめたり英國人を以て露國の非難に慘死せしめたり希冀するものなりとす又露國の人民に對して何等かの敵意を有するものなりと爲るが如く

蓋し世に誤れるものあらざらん英國は露國もし日本と名譽ある其和約を締結得たる後たゞ亞細亞に於ける侵略政策を盡く放棄し露國を以て他の諸國の保全を尊重して我等の同盟國が行ひたる如く我等と協約を締結せんと欲するに於ては露國の好意を以て之を迎合二國をして親厚なる友國ならしめ以て相互の大なる利便たらしめんことを希望するものなり露國の歐洲に於て其軍事の勢力を失ひ海軍共に疲憊の狀に陥らんものとせば斷じて英國の軍事的利益にあらす何となくは是れ西洋に於ける權力の平衡を顛覆するに至らんとするものなるを以てなり歴史の示す所に據れば若し國ありて西歐の覇權を獨逸に之を得るものとあら

ば必然の結果として我國の敵對之に次ぐ西班牙・イタリア王の歴史、ルイ十四世の歴史、ナポレオンの歴史みな何人も亦誤る能はざる教訓を我輩に傳ふるものなりとすべし
此戰爭の前後を通じて獨逸の軍事的助言は皆必す不良なりし其助言は之が印刷された紙片をだも價せず我輩は戰爭中露國のフオン・ゲアル伯につき聞く所あり我等は伯のローカル・アンツアイグルに發表して日本の運命を豫言し大膽にも遼陽の大山は相違なく毀滅さるべしと斷じたる其所言に傾倒せざるべからざるに至らしめられたり是れ即ち我等をして斯くの如き豫言深く不安の念を動かしかるを要せずとの警告を發せしむるに至りたるものなり此大家のいふ此ダイレムに陥り如何にして其面目を全うせんとしたるや之を見る亦一興ならずとせす伯の執りたる手段は頗る簡單なり伯曰くクロバトキンはリチヴィツチの援必す至らんものと確信せり其確信を得ざりし所以のものは全くリチヴィツチの之に至る能はざりしに歸す我々の賢明なる此助言はた或は之と等しくケートニヒスベルの普魯士軍がボレオンとしくはガヴィを攻撃せざりし爲めにしてオーストリア・ウエルス・タクト遂に

の奇なるものにして其舞文の技又新奇且巧妙なり大失は豫言者として頗る得するものと能はざる其眼を過ぐる事物に對しては慈愛なる判斷をたし検閲しを晦す其熱心に至りては驚くべし少時前その送りたるクロバトキンは四十箇大隊の兵を以て大石橋より進軍し壯烈なる攻撃に依りて大嶺を回復したるもの報は露國勝利の爾餘の諸報と同じく故なく其發信を許容されたりゲドケは思ふに之が勝利の報に對し其讀者の必す之を割引し得るを確信したるならん其傳へんことを欲したる要言はクロバトキン及び其軍隊の大部大石橋にありと云ふにあり之が發信の當時にありては是れ誠に重要な報達たりしを疑はず滿洲に於ける露軍陣地の險惡なるを叙して彼の爲したる其初めに偵察するや頗る強固なり然るも露國軍隊に依りて占領さるるに至り其たしく其弱なるに至るとの言又一箇の重き消息たりとすべし檢閲官遂に其意を解するを能はずして之が發信を許可せり要するにゲドケは其目睹する事實その傳聞する意見の忠實なる記録者として居らんことを欲するものならん彼しばし其たしく短見にして且つ誤解せるが如きありと雖も亦決して其周囲の軍隊中行はるる意見の矯めて反映するものにあらず

一月二十三日時事

○タイムスの日露戰爭批評 (百二十二)

獨逸と日露戰爭 (三)

失はれたりと云ふを得んか
リチヴィツチは沿州にありて自ら別箇の司令權を有するものなり其統轄區域は總督に依りて精密に圖示され鐵道水路をた盡く綿密なる區劃あり双方の間に聊も權限の争を許さず彼は滿鐵總督に關して其責任を負ふ是れ太平洋に於ける露國最後の據點なり其外に尙ほ巨多の守備地點あり皆日本の之を攻撃せんことを欲するに於ては直に陥落せんとするものなり而も其有する兵力は僅に東部西比利亞第八師團と若干の要塞軍隊及びコサック兵とに過ぎず尙ほ少數の西比利亞聯隊及びオレンブルグ・コサック師團との配下にあるが如くなり
と雖も之が所在に至りては未だ知らるる所あり其攻襲の來たる時を測らざるものなり今日の時は決してリチヴィツチの其兵を率ゐて遠く此地を去るに過せるものにあらず殊に翼を假りて飛翔するも彼が駐屯地と戰場との間に

クロバトキンの軍に従ひたる獨逸武官過去六箇月間の事件に關し如何の言を爲さん欲するかの之を知るものと頗る興あり開戰當時に於て此從軍武官はエクレールの通信に語りて其見を傳へり其云へる所は日本軍に取て決して喜ぶべきものにはあらざりし即ち彼は日本軍を以て重観さるるに過ぐと爲せり思ふに遼陽退却の悲しむべき事變の間其の將校また其所見の言を爲するの時を待たらん我等は露國に關する彼の此新報讀後及び其大體露國本部の絶東部に大なる專門的利便を與へ得たるを疑ふ能はざるなり
前記にある獨逸人中ゲドケ大佐は其名の傳へらるる人にして又恐らくば最も好く事理に通じたる人なるべし然れども大佐も亦固より其同國人の例に漏れず計算の上に於ては等しく死せる人物なり其試みたる豫測一として事實に適合したるものあるなし而も我等は尙ほゲドケに對して一片敬服ならん能はず彼が露國檢閱官の目を潜る其方法は確に奇策

は五百哩の距離あり鐵道に依らば七百里を有すリチヴィツチに遼陽敗戦の責任を分かつしめんとするは斷じて不可なりとすべし
(十三日所論未完)

即ち鄭重に之を反映するものなり
將來を論ずる獨逸人の意見は全然眞面目なる
其價值を有せしモルトクノ偉大なる教訓
果して如何我等は之に奇異の感なき能はず
ツケルモルトクノ秘訣最後傳授者にして
之が死は今日に移つて盡く日本陸軍の手に
歸したるか近年に於て外國陸軍の脈搏に其手
を觸れたるものに取つて獨逸軍事批評の腐敗
は蓋し聊も意外ならざるべし某々の西洋陸軍
は前世紀九十年代の初め頃よりして漸次その
長所の幾分を失ひ長き平和と且つ兵營庭内に
於ける厭倦なる課程とは茲に免るべからざる
其結果を齎し來れり小問題なりと雖も尚ほ我
等に聊か其言を用ひしむるの價值あるものは
即ち勳章の件なり一見些細なる事態なるが如
くなりと雖も而も其外見の如くに些細ならず
外國を旅行する英獨國民に取りて國家の職務
にある各階級各職任の人巡視の末に至るまで
其前に微章、勳章幾段にも之を懸け連ねるを
見るが如く其驚異に値するものあらざるべし
ノアと共にアークに依りて洪水の難を遁れた
る諸動物の形象は順次此等の勳章、勳章に彫
り出され殆ど餘さず處なく尙ほ延いて其他の
物象に及ぶ受勳者の縦しや過半数ならざる事

でも確に其多數者は平和の職任にあるものに
して殆ど受勳者の全部は曾て戦を見たるもの
なきものなり賢明なる政策を以てせば其生命
と其健康とを戦場の危險に暴出したるもの
みづから限るべきからざる報酬——如何に
考ふるも斯の如き功勞に酬ゆるに之に過ぎた
る廉價の賞あらざるべきを以ての故に——今
や吾等が所なくして各階級各姓の宮内官、政府
官吏、食客等の間に散布する如くの人々
人間天性の無限なる虚名心に乘じて巧に制定
したる勳章制度も最早や其本意を失ひたるも
のなりとせざるべからず若し其人唯一の希望
を軍隊に於ける其功名に屬する將校ありて
祭列外國皇族接伴等宮内官の臭味ありて
の臭味ありて僕等の臭味ある職務に當り亦尙ほ
勳章を得るべきを得て以て盡く其虚榮心を充た
すことを得るを發見せば即ち如何その専門的
研究に對する至大なる刺激と其現役任務に參
加せんことを欲する熱心とは爲めに續く失は
るべきにあらざるや軍服を着る將校に對して
は如何なる場合と雖も之に其戰場に實際に參
加し且つ殊功ありたるが爲めに得たる勳
章の外隨じて佩びしむべからず健全なる之が
古來の傳説に復歸するべきを得る一國の主權
者及び其宰相は即ち賢なりとすべし

英國の將校外國の演習を參觀するに當りて常
に特に其大部隊運動及び參謀任務につき學ぶ
べき所多きを發見す然れども其戰術は今日
の狀態に對するより軍中舊の武器、前書
の時代に適應するものなるが如し露語を學びた
る英國將校にして語學の其智識を完了せんが
爲め自ら其身を露國に放流するものは皆必す
露國軍事的文學の頗る空乏にして語學研究の
其要甚だ少なきを發見すべし露國は既に中歐
諸國に後するものにして中歐諸國また且つ時
勢に伴はざるものなり
此等の理由に依りて獨逸の助言及び獨逸の所
説に對する露國人民及び露國參謀本部の信任
は不幸にして聊か誤れるが如し露國が政務に
於て且つ海陸の戰爭に於て行ひたる一切の過
誤はタイムス及び其他英米の言論機關に依り
て盡く指摘されたり其結果の原因に從ひて生
じ來れる前に當り早く之を論述したるものな
り露國もし其受けたる警告に對し聊かたりと
も其注意を加へたらんには其位置を回復し其
災害を免るゝに於て充分の時日之に存したる
べきなり遼東の此大災害に關しても我等は早
く既に日本の如き敵に對し豫備軍隊を用ふる
の危險なるを辯じ置けり然るも露國は第五軍
團のオルロフ師團を潰破するに至るまで

之が事實を憂ふるも能はざりし我等の聞く所
に據れば第五軍團の行動其だしき非難を受く
るに至れりと云ふ蓋し不公平なりと云はざる
べからず何と云ふは斯くの如き民衆分子より
成れる軍隊は決して前面に使用するべきを得
べきものにあらずるを以てなり非難を受け
ざるべからざるものありとせば露國陸軍省
の行動を指して他に之をまじへからずクロバ
トヤン陣地の南方正面に加へらるゝ攻撃は必
ず其右翼に落下すべきとは我等早く前に之を
論じて事實また我等の推斷の誤らざるしを示
し黒木の太子河渡河及び露軍の後方に於て其
行ふべき動作に至りては我等之が實現せる一
箇月前に於て之を叙述せり我等は又露軍指揮
官に警告するに指揮官よしや日本軍の兵隊を
知れりとするも其軍事的價值は之を解せざる
ものなりとの事を以てしたり露國の最良なる
友國と雖も亦これ以上の親切を露國に盡くす
るも能はざるべし然れども我等は又別の種
の豫言を試み曾て我等の同盟國に損害を加ふる
ものとなきを得たり蓋し專制君主及び一切の配
下は露國人を暗黒裡に存せんとて相共同
するものにして露國人民に事實を知らしめ事
理を解せしむべしと認めらるゝ一切の記事は

檢閱官に依りてタイムス紙上より抹殺された
るものと疑を容るべからず且つ露國の人民たる
單に必ずしも軍事的のみ云はず凡て一切の
時局を解するに其能力を有せざるものなる
ものと亦明なるを以てなり是を以てか問題の此
部面をも概括して我等の露國に與へべき助
言は即ち露國その既に生じたるよりも以上の
惡事の上に落下するを希望するにあらざる
限り獨逸の意見には重ねて其注意を拂ふべか
らずと云ふにあり
(十三日所論定)

タイムス紙の
戦争批評 (百二十三)
(九月十七日軍事批評家所論)

露國、日本の眞價を
確認せんことを

遼陽に於ける日本の勝利遂に露國人をして其
目を敵軍隊の軍事的價值に開かせしむるに至
り今日まで前面に於ける通信員及び本國に於
ける批評家の倦むるをなくして以て露國公衆
を愚弄したる其謂はれなき氣安めの到底詭詐な
りしを悟らんとするの狀頻に現れ來たり
九月五日のウィードモスは即ち既往を回想

して清國人の流言に依りて又は不完全なる清國
語の智識に依り誤られて其體信したる日本軍
の損害を計算し遼陽の戰當日に至るまで黒木
は二萬八千人野津は一萬六千人奥平は三萬九千
人を失ひたるべきを以て之に種々なる他の
想像的損害をも合算すれば其損害總數十萬に
達したるべからざる都合なり右は全く旅
順日の損害を度外に排くものにして旅順日に
於ては——我等も之を知れるが如く——攻圍
軍全部既に數回も殲滅されたるべき筈なりと
云へり斯くてウィードモスは然るに關せず
日本軍の尙ほ遼陽に三十萬の其兵を勵し得た
るを稱し然る後に於て同新聞即ち論じて曰
く大露國人民は當に千八百九十四年より九十
五年に亘る戰爭に於て清國人民の一籠置され
たる同一の虚偽、妄誕に其己を蔽ふべから
ざるなりと

九月九日のルスまた寧ろ之よりも率直なるも
のにして即ち論じて曰く露軍敗戦の主要なる
原因は日本軍の兵力及び能力を其だしく輕視
したるにありと新聞は又日本の勝利その數
字的優勢なりし結果にあらざるして剛勇と精練
との結果なりしを承認し更に進んで日本より
の最近報に據るに敵軍隊此上に増大するも